食事、提供方法にもこだわり

サポート工夫で実現

高齢者施設にとって利用者に提供する食事に悩みは付き物だ。特に、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など、入居者が365日生活する施設は飽きを感じさせず、楽しんでもらえる食事のために様々な策を講じる必要がある。日総ニフティ（横浜市）では給食会社と密に連携し、入居者目線に立った食事の追及を行っている。同社の執行役員で介護付有料老人ホーム「すいとぴー港南台ｍｉｏ」（横浜市）の施設長も務める小野寺俊子氏に話を聞いた。

日総ニフティ 執行役員
すいとぴー港南台 mio
小野寺俊子施設長

―施設について。

小野寺 当社では現在、有料老人ホームを5棟運営しています。当施設は2009年の開設で当社が運営する5棟の中で2番目に新しい施設です。居室は全30室、その内29室で現在入居者が生活しています。平均介護度は1・5程度で比較的元気な方々が暮らしています。

―食事を重視した運営を行っているようです。

小野寺 こだわりを持った食事提供を特徴にしています。私は元々、当社の在宅介護部門で働いていました。当施設の開設が決まり、施設長に就任したのですが、有料老人ホームは病院ではなく、また、入居対象者として想定されるのが比較的自立度の高い人ということでしたので家庭のような〝普通の食事〟をコンセプトにしていきたいと考えました。食事は外部企業に委託することになっていたので、多くの企業に実際に食事を作ってもらい、当社社員が見た目や味などで点数を付け、選定していきました。最後に、施設長となる私が「実際にこの質を保った食事を提供してくれるのであれば」と強く念押しし、決めたのが現在利用しているセプト（東京都墨田区）です。

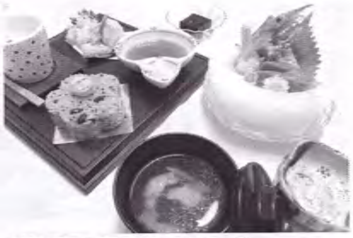
―選定の決め手になったことは。

小野寺 味は勿論ですが、手間がかかる盛り付けや食器のセンスなどが決め手となりました。例えば、魚料理が出ていてもそれが何の魚か分からないことがあります。セプトはそういったことがなく魚や野菜、肉など見た目で食材が分かる料理を提供してくれます。盛り付けも利用者だけではなく、施設側から見ても笑顔になれるような細かな心配りができています。また、織部の器を使うなど、料理に適したデザインの食器を使うセンスが抜群でした。施設長として働く中で高齢者の楽しみが食事であるということを強く感じるようになっています。見た目にも楽しく味も良い食事が提供されなければ施設運営は上手くいきません。

―食事は給食会社と施設の連携が重要と言われます。

小野寺 その通りだと思います。食事は楽しみの一方で365日3食、口にするものですから飽きを感じることもあるものです。当施設でも利用者から「食事が綺麗過ぎる」という意見が出たことがあります。そのような要望には料理長と話し合いを重ね、あえて食材の形を整えず、不均等にすることで対応しました。また、私は極力昼食と夕食を入居者と一緒に食べるようにしているのですが、その中で冬は湯気が出るような鍋焼きうどんや湯豆腐、おでんなどを土鍋で出したいと思うようになり、セプトにリクエストを出して実現させました。当社が運営する他施設からは火傷などのリスクを心配されましたが、入居者が満足するものを家庭のような提供方法で出さなければ楽しい食事などありえません。料理長や職員と入念に打ち合わせを行い、サポート方法を工夫することなどでこれらを可能にしてきました。

▲すいとぴー港南台 mio の外観



▲施設で実際に提供されている食事の一例

―密な連携がとれているようです。

小野寺 私の思いとセプト、そして料理長の思いが一致していることが大きいと思います。私は厨房を〝セプト〟とは見ておらず、自社職員の感覚で見ています。ですから料理長とも本音で語り合いますし、セプトだけでは難しいことであれば施設側がどう補完すれば良いのかを考えていきます。施設側として納得できないことがあれば、料理長が試行錯誤を重ねて納得するまで取り組んでくれます。入居者からの「ありがとう」「美味しかった」「また楽しみにしている」という言葉もありますが、そのような言葉が無くとも食べている時の表情や様子で食事を楽しんでもらえたかどうかは伝わってきます。当施設の経験から当社5棟目となる横浜市中区の施設でも食事はセプトを利用しています。

料理長と共に“食事の時間”演出

―そのほか力を入れていることは。

小野寺 ターミナルケアにはもっと力を入れていきたいと思います。これまで2名の方を看取ってきました。その内、1人は医療的処置が必要になり、一度病院に入院してしまったのですが、本人の施設に戻りたいという強い希望で退院し、緩和ケアを施して看取りました。家族からも「本人の思い通りの最期を迎えられた」と言っていただきました。また、その際にもセプトは生前、その入居者が大好きだった天丼をすぐに用意し、枕元に供えてくれました。万全の看取り体制で、最後まで入居者や家族への心配りが行き届いた施設にしていきたいです。

―今後について

小野寺 年に1回保健所が厨房のチェックを行うのですが、当施設は開設以来、毎年100点を貰っています。これは施設あるいは給食会社のいずれかの努力だけでは達成できないことと言われています。セプトが施設との親密な関係を作ってくれているからこそだと思います。優秀な厨房環境を持つ施設として12月に保健所が発表する2014年度の「秀級施設」に当施設が選ばれそうだということです。食事を中心に入居者、施設職員、そして家族が良好な関係を築ける施設となることを目指していきたいですし、当社としても今後まだまだ施設の開設があるでしょうから、新たな現場でも活かせるよう私達の取り組みを良いものとして社内共有していきたいです。

▶衛生管理の行き届いた厨房

加湿・ニオイ対策 専用装置設置

来客・家族からも好評

社会福祉法人豊珠会（千葉県柏市）が運営する特別養護老人ホーム八幡苑（同）はボランティアを積極的に受け入れ、地域密着で施設を運営している。入居者の健康だけではなく、ボランティアのために施設を訪れた地域住民が気持ち良く活動できるよう衛生面にも細心の注意を払っている。岩崎亮介主任生活相談員に話を聞いた。

岩崎亮介
主任生活相談員

―法人の概要は。

岩崎 特別養護老人ホーム2棟、デイサービス2ヵ所、2ユニットのグループホーム1棟、居宅介護支援事業所2ヵ所、柏市からの委託事業で地域包括支援センターを運営しています。

―特別養護老人ホーム八幡苑について。

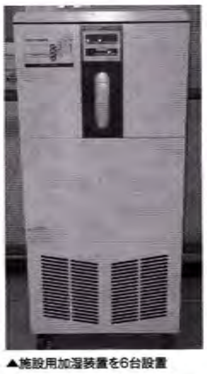
岩崎 八幡苑は1982年開設の歴史ある施設です。住宅街に立地していることもあり、地域に根差した施設となることを目標にしています。

―具体的には。

岩崎 地域に根差すためには地域交流が大切です。自宅同様に来客があり、社会との接点を持ち続けられる状況を作り出さなければいけません。そのため、施設で開催する夏祭りなどのイベントには近隣住民にも参加してもらいます。地域の小中学生との交流会も年に4～5回行っています。小学生手作りのボーリングや玉入れのほか、童謡や唱歌を一緒に歌うことで入居者は非常に喜んでいます。学校の先生達からも「核家族化が進み、高齢者と接する機会が少ない子供も多いため、教育にも良い」という声をいただいており、双方に良い影響のある交流会だと思います。

―ほかに取り組んでいることは。

岩崎 近年はボランティアを積極的に受け入れています。内容としてはシーツ交換、清掃、車椅子清掃、慰問としてカラオケ、落語、楽器を使った演奏などです。



▲施設用加湿装置を6台設置

―ボランティアの受け入れを積極的に行う理由は。

岩崎 職員一丸となってレクリエーションを考案しますが、それに限界を感じたことがきっかけでした。地域の人の手を借りることは小中学生との交流同様、外の風を施設に呼び込むことに繋がります。外部との接点が増えたことは家族からも喜ばれています。

―地域交流以外に運営上重視していることは。

岩崎 特に気をつけているのは衛生面です。感染症防止に努め、入居者も訪問客も気持ちの良い清潔な施設でありたいと思っています。そのためにはニオイの面にも配慮しなければなりません。当施設では三協エアテック（大阪市）が施設用として販売・レンタルを行う脱臭・除菌機能を備えた加湿装置「ＳＡＴ－22ＭＫ」を導入しました。同装置の導入前はニオイ、湿度、乾燥が課題となっていました。汚物やリネン関係、医療機器などによる施設特有のニオイは慣れてしまうことがあるため、入居者や職員は感じなくても訪問客はニオイを感じているケースがあります。また、感染症防止のためには加湿が必要となりますが、家庭用の加湿器では加湿力も弱く、数台設置し、濡れタオルを干し、洗面台に水を張るなど工夫をしてみましたがあまり効果はありませんでした。1～2時間に1回の水補給や詰まりを防止するための定期的な清掃も手間に感じていました。

―施設用の加湿装置導入後は。

岩崎 廊下と食堂に6台設置しましたが、高濃度プラズマイオンと純水水蒸気を放出して行う殺菌・脱臭により「ニオイが減った。空気が澄んでいる」という声が訪問客や家族から出るようになりました。菌による肺炎などのリスクも抑えられ、実際に肺炎による入院の数も減っています。また、加湿は過剰に行うとカビの繁殖原因となりますが、加湿度60％で自動停止する機能が付いているので安心です。24時間毎に機器内部の不純物を取り除く自動洗浄機能も備えられており、加湿や空気清浄の面でも職員の手を煩わせることが無くなりました。手間が減った分だけ、その時間を入居者との時間に充てられています。殺菌フィルター付きで花粉症対策も可能です。換気扇を回したり消臭スプレーを購入する経費や手間、それに年間を通して利用可能であることを考慮し、加湿装置をレンタルではなく購入しました。

―今後について。

岩崎 来年4月には小規模多機能型居宅介護事業所を開設する予定です。その施設では当施設の経験を活かし、三協エアテックが販売する天井埋め込み型の加湿装置を14台設置します。法人として地域貢献に繋がる施設を今後も展開していく考えがありますので、衛生面に気を配りながら、やはり地域の力を借りて地域に根差した運営をしていきたいと思います。